769198－008

＊＊2017年１月改訂（第８版）
＊2008年４月改訂（第７版）

体外診断用医薬品
［承認番号　20600AMZ01185000］

ご使用に際しては、本添付文書をよくお読みください。

リン脂質キット
（分類コード番号：30176000）

ピュアオート®S PL

全般的な注意

1．本品は、体外診断用医薬品ですので、それ以外の目的には使用できません。
2．測定結果に基づく臨床判断は、臨床症状や他の検査結果などと合わせて担当医師が総合的に判断してください。
3．この添付文書に記載された使用方法に従って使用してください。記載された使用方法及び使用目的以外での使用については、測定値の信頼性を保証しかねます。
4．試薬が誤って目や口に入った場合には、水で十分に洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば医師の手当て等を受けてください。
5．各種自動分析装置でのご使用にあたっては、必ず測定装置の取扱説明書をよくお読みください。なお、別途、各機種別のパラメーターを用意しておりますので、必要な場合には弊社までご連絡ください。
6．本品を使用する際は精度管理を実施し、精度が確保されていることを確認してください。

形状・構造等（キットの構成）＊＊

構成試薬名　成分

PL酵素液①：4-アミノアンチピリン
ホスホリパーゼD（細菌由来）
パーオキシダーゼ
アスコルビン酸オキシダーゼ
2-アミノ-2-ヒドロキシメチル-1, 3-プロパンジオール緩衝液

PL酵素液②：N-エチル-N-（3-スルホプロピル）-m-アニシジンナトリウム
コリンオキシダーゼ（細菌由来）
ピペラジン-N, N’-ビス（2-エタンスルホン酸）（PIPES）緩衝液

使用目的＊

血清又は血漿中のリン脂質の測定

リン脂質は主としてレシチン、スフィンゴミエリン、リゾレシチンなどから成り、いずれもリン酸のエステル化合物です。リン脂質はリポタンパクの構成要素として、脂質代謝に重要な役割を果たすとともに、肝機能障害などで低下が認められています。

測定原理

1．測定原理

検体中のリン脂質の大部分を占めるレシチン、スフィンゴミエリン、リゾレシチンは、ホスホリパーゼDによりコリンを生じます。コリンはコリンオキシダーゼにより酸化され、過酸化水素を生じ、過酸化水素はパーオキシダーゼの存在下で4-アミノアンチピリンとN-エチル-N-（3-スルホプロピル）-m-アニシジン（ADPS）を酸化縮合させキノン色素を生じます。このキノン色素の吸光度を測定することにより、リン脂質量を求めます。
なお、検体中のアスコルビン酸の影響はアスコルビン酸オキシダーゼにより除いています。

リン脂質（レシチン／スフィンゴミエリン／リゾレシチン）　ホスホリパーゼD　→　コリン＋（ホスファチジン酸／N-アシルスフィンゴジルホスフェート／リゾホスファチジン酸）

コリン　コリンオキシダーゼ　→　H_2O_2 ＋ ベタイン

H_2O_2＋ADPS＋4-アミノアンチピリン　パーオキシダーゼ　→　キノン色素

2．特長

1）試薬の調製が不要の液状試薬です。
2）長波長測定なので、溶血やビリルビンの影響をほとんど受けません。
3）アスコルビン酸の影響を除きました。
4）各種自動分析装置への適用が可能です。

操作上の注意＊

1．測定試料の性質、採取法

1）測定試料
血清、血漿（ヘパリン血漿、EDTA血漿、クエン酸血漿、NaF-EDTA血漿）又は尿が使用できます。

2）測定試料の保存について
血清（漿）分離後、当日中に測定できない場合は次のように保存してください。[2)]
なお、測定に際しては、検体を室内温度（15～30℃）に戻してから測定してください。
4週間以内に測定する場合　2～10℃又は－20℃以下

2．妨害物質

遊離型ビリルビン50mg/dLまで、抱合型ビリルビン50mg/dLまで、ヘモグロビン1000mg/dLまで、アスコルビン酸50mg/dLまで測定値に影響はありません。

3．その他

1）検量用物質には、セロノルム®・リピッド又はコレステスト®Nキャリブレーター（当社品）を使用してください。

2）測定範囲に関する注意
検体の濃度が測定範囲を超える場合は、検体を生理食塩液で希釈して再測定してください。

用法・用量（操作方法）＊＊

1．試薬の調製法

試薬①：PL酵素液①をそのまま使用します。
試薬②：PL酵素液②をそのまま使用します。

2．測定（操作）法

本品は各種の自動分析装置に使用されますので、その操作法の一例を示します。

検体 3μL ＋ 試薬① 260μL →（37℃ 5分）→ 測定（吸光度Ⅰ※）

試薬② 130μL →（37℃ 5分）→ 測定（吸光度Ⅱ※）

→ 濃度計算

※吸光度Ⅰ,Ⅱ：800nmと600nmの吸光度差

検量用物質：セロノルム®・リピッド又はコレステスト®N キャリブレーター（当社指示値）

試薬ブランク：精製水又は生理食塩液

測定結果の判定法

1．基準範囲[3)]

150～230mg/dL

2．検体により、検体中の目的成分以外の物質との反応や妨害反応を生じることがあります。測定値や測定結果に疑問がある場合は、再検査や希釈再検査、あるいは他の検査方法により確認してください。

性能＊

1．感度

1）試薬ブランク　吸光度は0.100以下

2）感度　リン脂質300mg/dLにつき吸光度は0.34～0.42

2．正確性　測定期待値の95～105%

3．同時再現性　変動係数５%以下

（1.～3.までの試験方法は弊社試験方法による）

4．測定範囲[4)]（7170S形日立自動分析装置による）

1～1000mg/dL

5．相関性[4)]

1）血　清　N＝100　r ＝0.997　$y=1.01x+1.8$

対照法：既承認体外診断用医薬品（酵素法）

2）血　漿　N＝137　r ＝0.999　$y=1.01x+0.3$

対照法：既承認体外診断用医薬品（酵素法）

6．較正用標準物質

塩化コリン（社内標準品）

使用上又は取扱い上の注意＊＊

1．取扱い上（危険防止）の注意

検体はHIV、HBV、HCV等の感染の恐れがあるものとして取り扱ってください。検査にあたっては感染の危険を避けるため使い捨て手袋を着用し、また口によるピペッティングを行わないでください。

2．使用上の注意

1）本品は凍結を避け、貯蔵方法に従い保存してください。凍結させた試薬は、品質が劣化して正しい結果が得られないことがありますので使用しないでください。

2）使用期限を過ぎた試薬は、測定値の信頼性を保証しかねますので、使用しないでください。

3）試薬を注ぎ足して使用することは避けてください。

4）測定は直射日光を避けて行ってください。

3．廃棄上の注意

1）使用済の検体及び検体容器などを廃棄する前に0.1%濃度以上の次亜塩素酸ナトリウム溶液に１時間以上浸すか、又はオートクレーブ（121℃、20分間）で処理してください。

2）検体又は検体を含む溶液が飛散した場合、感染を防止するため、0.1%濃度以上の次亜塩素酸ナトリウム溶液等でよく拭き取ってください。

3）試薬及び処理した検体などを廃棄する場合には、廃棄物に関する規定に従い、医療廃棄物又は産業廃棄物などとして処理してください。

4）試薬の廃棄にあたっては、水質汚濁防止法等の規制に留意してください。

4．その他の注意

容器等は他の目的に転用しないでください。

貯蔵方法・有効期間＊＊

1．貯蔵方法　　2～10℃

2．有効期間　　製造後１年間

（使用期限は外装に記載してあります）

包装単位

名　称			包　装
ピュアオート®S PL	①	PL酵素液①	100mL×４
	②	PL酵素液②	100mL×４

本品の構成試薬には別包装があります。弊社までお問合わせください。

主要文献＊＊

1）仁科甫啓：Medical Technology　**12**, 539（1984）

2）佐々木匡秀、他共著：人体成分のサンプリング　p.257, 講談社（1972）

3）金井正光監修：臨床検査法提要, 第34版, p.515, 金原出版（2015）

4）積水メディカル株式会社　社内データ

お問合わせ先

積水メディカル株式会社　学術担当

電話番号　0120-249-977

FAX番号　0120-247-477

製造販売元＊＊　積水メディカル株式会社

東京都中央区日本橋二丁目1番3号